



## 自然・ひと・体験

編集：日本野外教育学会広報委員会

発行：日本野外教育学会事務局

〒305-8574 つくば市天王台 1-1-1 筑波大学体育系野外運動研究室内

TEL&FAX. 029-853-6339



蔵王連峰の象徴「お釜」

### 日本野外教育学会第22回大会（宮城） 案内

日本野外教育学会第22回大会のご案内	2~6
コラム「すべての子どもに自然体験を♪」 居崎 時江	7
事務局便り	8~9

## 日本野外教育学会第22回大会（宮城）のご案内

大会実行委員長：佐々木 豊志（青森大学）

大会事務局長：岡田 成弘（仙台大学）

### 大会テーマ：野外教育×東北 ～東北の昔・今から、野外教育の未来を考える～

日本野外教育学会の大会が、初めて東北で開催されます。2011年3月11日は東北地方にとっては大きな節目であり、既に東日本大震災から8年が経過しました。東北初の大会テーマは、「野外教育×東北～東北の昔・今から、野外教育の未来を考える～」としました。自然豊かな奥深い東北に昔から脈々と繋がるものは何か、震災からの復興が現在進行形で進められている今、そしてこれらの時空を貫く野外教育の未来は何か、を皆さんと考える場を用意しています。震災では、すべての人々の「生きる力」を試される場の連続でした。私たちに、「野外教育は生きる力を育む事ができるのか」と突きつけられた出来事でもありました。基調講演には震災当時、東北地方整備局長で重責を担った徳山日出男氏（その後、国土交通省事務次官に就任）をお招きします。震災直後の混沌とした状況の中で、のちに「くしの歯作戦」と呼ばれる被災地の道路啓開を遂行しました。生きる力がどのように働き、そして徳山氏自身の生きる力はどのようにして育まれたのか興味があるところです。

その他に、東北×野外教育というテーマを、昔・今・未来の3つの視点から考える分科会や、伊達藩時代に造られた運河（貞山堀）、今年全線が開通したトレイル（みちのく潮風トレイル）を体感できるエクスカージョンなど、東北らしさを満喫できるプログラムを用意しております。多くの会員の皆様に東北・宮城にお越しいただくことをこころよりお待ち申し上げております。オール東北の実行委員会でお迎えいたします。

1. 期日 2019年6月21日（金）～23日（日） 〈日本山岳・スポーツクライミング協会理事〉

『今を動かす野外の力』

2. 会場 仙台大学

「未来」 甲斐知彦氏〈関西学院大学教授〉

〒989-1693 宮城県柴田郡柴田町船岡南2丁目2-18

『AI 社会における野外教育』

<https://www.sendaidaigaku.jp/>

17:00～ 総会

18:30～ 懇親会（ホテル原田 in さくら）

### 3. 大会日程

【第1日目：6月21日（金）】

エクスカージョン

A：みちのく潮風トレイル（くりこま高原自然学校）

B：貞山運河でカヌー（くりこま高原自然学校）

※詳細は学会ウェブサイトにてご案内いたします。

【第3日目：6月23日（日）】

8:30～ 受付

9:00～10:15 研究発表Ⅰ

10:30～11:45 研究発表Ⅱ

13:00～14:00 ポスター発表

14:00～15:15 研究発表Ⅲ

15:30～ 閉会式

【第2日目：6月22日（土）】

8:30～ 受付

9:00～11:30 自主企画シンポジウム

11:30～ 理事会

13:00～ 開会式

13:30～ 基調講演

『災害列島に生きる ー東日本大震災の教訓ー』

徳山日出男氏〈政策研究大学院大学客員教授〉

〈元 国土交通省事務次官〉

15:00～ 分科会

『東北の昔・今から、野外教育の未来を考える』

「昔」 宮沢和樹氏〈(株) 風林社〉

『宮沢賢治の自然観』

「今」 むらかみみちこ氏

〈NPO 法人 FIRST ASCENT JAPAN 理事長〉

### 4. 第22回大会専用ウェブサイト

各種申込や原稿提出は、下記URLから行ってください。

<http://joes.gr.jp/sendai2019>

### 5. 研究発表・実践報告の申込

【発表等申込期限：4月17日（水）】

\*原則として、大会専用ウェブサイトから申込ください。

\*研究発表は、口頭形式とポスター形式があります。実践報告は、ポスター形式のみです。

\*若手優秀発表賞にエントリーされる方は、同時に申込ください。対象は35歳未満です。

## 6. 抄録原稿の提出

【抄録原稿提出期限：4月24日(水)】

- \*原則として、大会専用ウェブサイトから申してください。
- \*「発表資格と注意事項」および「抄録原稿提出要領」に従ってください。

**例年より発表申込及び抄録提出等の期限が早くなっています。お気を付けてください。**

## 7. 自主企画シンポジウムの申込および原稿提出

【申込・原稿提出期限：4月24日(水)】

自主企画シンポジウムは、第22回大会に参加する学会員自らが、テーマ、司会者、話題提供者、指定討論者等を設定して実施されるシンポジウムです。自主的にシンポジウムの企画を温めてきた学会員、若手研究者の申込をお待ちしています。企画を希望する会員は、原則として、第22回大会専用ウェブサイトから申してください。

- ※「自主企画シンポジウム抄録原稿提出要領」に従ってください。

## 8. 大会参加の申込及び参加費納入

【参加申込・参加費納入期限：5月8日(水)】

原則として、大会専用ウェブサイトから申込した上で、必ず参加費等を納入してください。

## 9. 会場までの交通機関

仙台大学（宮城県柴田郡柴田町船岡南2-2-18）  
（詳しくは仙台大学のHPをご覧ください）

### ◆新幹線の場合

仙台駅からJR東北本線上り線（白石・福島行き等）に乗車、  
「船岡駅」下車後徒歩12分（仙台駅～船岡駅約33分）

### ◆飛行機の場合

仙台空港駅から仙台空港アクセス鉄道で名取駅へ（約10分）、  
名取駅からJR東北本線上り線（白石・福島行き等）に乗車、  
「船岡駅」下車

### ◆車の場合

東北自動車道村田I.Cから大学まで約20分、白石I.Cから大学まで約30分

- ※大学内には駐車できません。大学から徒歩約7分の仙台大学サッカー場横駐車場（無料）に停めていただくことになります。台数把握のため、参加申込時にお知らせください。

## 10. 宿泊および食事について

宿泊は、船岡駅周辺もしくはJR東北本線沿線の宿泊施設を各自でご手配ください。船岡駅近くには、「ホテル原田inさくら」と「ビジネスホテル太郎」の2つのホテルがありますので、是非ご利用ください。

学会中の昼食も各自でご準備ください。当日学内の食堂は営業しておりません。大学近隣には、弁当屋、飲食店、コンビニエンスストア等があります。お弁当などの一括注文はありません。

## 11. 学生・若手向けキャンプ場宿泊プラン

学生や若手（20代）を対象に、地元のキャンプ場宿泊プラン（素泊まり）を用意しています。2日目懇親会終了後、会場からバスでキャンプ場まで送迎します（所要時間約45分）。施設内で、寝袋での宿泊となります。入浴は、翌朝、近くの公衆浴場（温泉）が利用できます。3日目9時までに仙台大学に到着できるようにバス輸送します。希望者は、大会専用ウェブサイトの参加申込フォームから申してください。料金は、2,000円で、当日払いとなります。

宿泊施設：AONE×MATOKA（アオネマトカ）



## 12. 参加費・懇親会費

①参加費（大会参加費＋研究発表抄録集代）

	期限前納入	期限後納入
一般会員	5,000円	6,000円
学生会員	3,000円	4,000円
団体会員	5,000円	6,000円

非会員（一般） 3,000円/日

非会員（学生） 2,000円/日

※非会員の参加費は、期限前・期限後ともに同額です。

※抄録集（2,000円）のみの購入も可能です。

## ②懇親会費

	期限前料金	期限後料金
正会員(一般)・団体会員 ・非会員(一般/学生)	5,000円	6,000円
正会員(学生)	3,000円	4,000円

## 13. 納入方法

同封の振込用紙を用いて、下記口座に振込みください。

**5月8日(水)までに納入確認できない場合、期限後料金をいただきます。**また、一旦納入された参加費等の返金はいたしません。

## 【振込先 郵便振替口座】

口座記号番号 02280-3-143493

口座名称 日本野外教育学会第22回大会実行委員会

## &lt;他の金融機関から振込みの場合&gt;

ゆうちょ銀行 二二九(ニニキュウ)店 (229)

当座 口座番号 0143493

## 14. 託児について

仙台大学の保育室で託児をいたします。対象は、原則として2歳~6歳の未就学児とします(小学生については大会事務局までご相談ください)。託児には、仙台大学保育室で託児のアルバイトをしている学生があたります。料金については、一部を大会運営費で補助し、1日最大5,000円までをご負担いただきます。詳細は個別に対応いたしますので、参加申込時に申請してください。

## 15. 大会事務局・問い合わせ先

〒989-1693 宮城県柴田郡柴田町船岡南2-2-18

仙台大学 岡田研究室

日本野外教育学会第22回大会事務局(岡田成弘)

TEL&FAX:0224-55-1263 E-mail: 22th@joes.gr.jp

※問い合わせ等は、できるだけE-mailでお願い致します。



## 研究発表・実践報告の注意事項

## ◆発表の資格に関すること

- 筆頭者および演者は、正会員、名誉会員、団体会員(一般)、賛助会員、および大会実行委員長が認めた者とする。ただし、非会員であっても外国人研究者に関してはこれを認める。
- 共同研究者には、非会員が名前を連ねても差し支えない。
- 筆頭者および共同研究者に関して、会員は年会費を期日までに完納していること。また、非会員は所定の発表投稿料(3,000円)を期日までに納付すること。

## ◆発表の方法等に関すること

- 原則として未発表の研究に限る。
- 筆頭の発表(口頭発表、ポスター発表、実践報告)は1回の大会において1題目に限る。
- 発表の言語は、日本語あるいは英語とする。
- やむをえない理由で演者が発表できなくなった場合、事前に大会実行委員長の承認を得て、共同研究者による代演を認める。

## ◆抄録原稿に関すること

- 一度提出した抄録原稿の訂正はしない。
- 発表された抄録は、学会ウェブサイトに掲載する。

## ◆その他

- 本学会が定める倫理規定を順守すること。
- 以上の発表要件に満たない研究は、発表を取り消す場合がある。

## 研究発表(口頭/ポスター) 抄録原稿提出要領

※大会専用ウェブサイトから、「研究発表抄録原稿フォーマット」をダウンロードして、作成してください。

- 原稿枚数: 口頭形式はA4版2頁、ポスター形式はA4版1頁とします。原稿は、白紙を縦置きにし、天地左右に25mmの余白を設定し、ワードプロセッサ等で作成してください。
- 演題(14ポイント・ゴシック体): 演題は1行目(必要があれば2行目まで可)に、副題がある場合は改行してそれを記載してください。また、演題(あるいは副題)の下の行に、英文タイトルを記載してください。
- 氏名(12ポイント・明朝体): 英文タイトルの下に1行空白を設け、その下の行に氏名と( )内に所属を記載してください。また、共同研究者も同様に連記し、演者氏名の前に○印をつけてください。
- キーワード(10ポイント・明朝体): 氏名の下に1行空白を設け、その下に発表内容のキーワード(2~5個)を記載してください。(例) キーワード: ○○○○、○○○○

5. 本文 (10 ポイント・明朝体) : キーワードの下に1行空白を設け、その下から本文を記載してください。本文は、1行あたり20~22文字の2段組とし、1頁の行数は、演題の行を含め40行程度とします。
6. 図・表および写真: 原稿に直接挿入し、「通し番号」と「見出し」をつけてください。
7. 提出方法: 原則として、大会専用ウェブサイトから、PDF形式の原稿データを提出してください。なお、原稿の校正は行わず、そのままオフセット印刷で抄録集に掲載します。
8. 原稿締切: **2019年4月24日(水) 必着**
9. その他: 上記の提出要領に沿わない原稿は受付けません。なお、上記以外に「野外運動データベース (ROP)」登録上必要な情報を提供していただく場合があります。



### 実践報告 (ポスター) 抄録原稿提出要領

1. 原稿内容: 抄録集に概要を掲載するため、「演題」、「英文タイトル」、「氏名と所属」、「概要 (500字以内)」を作成してください。また、演者氏名の前に○印をつけてください。

2. 提出方法: 原則として、大会専用ウェブサイトから原稿内容を提出してください。
3. 原稿締切: **2019年4月24日(水) 必着**
4. 発表方法: 当日の発表は、研究発表 (ポスター形式) に準じた形式となります。

### 自主企画シンポジウム 抄録原稿提出要領

抄録集に自主企画シンポジウムの紹介文を掲載します。以下の、原稿の作成・提出の要領、留意事項をご確認ください。

1. 原稿内容
  - 「シンポジウムテーマ」、「テーマの英文」、「企画担当者 (役割も含めて)」、「企画の趣旨 (400字程度)」を作成してください。大会実行委員会でA4版1/2頁程度に編集し、抄録集に掲載します。
  - 企画担当者については、氏名の後に ( ) を記し所属を記入してください。また、役割については、企画者、コーディネーター、話題提供者、指定討論者など、ご自由に設定してください。
2. 提出方法
  - 原則として、学会大会専用ウェブサイトから原稿内容を提出してください。
  - 原稿締切: **2019年4月24日(水) 必着**
3. 留意事項
  - 申込多数やテーマが重なった場合は、大会事務局で調整の上、5月上旬に申込者に決定連絡する予定です。
  - テーマや趣旨が本学会の趣旨と著しく異なっていたり、事前の申込内容と著しく違っていたりする場合は、実行委員会の判断で企画を取りやめていただく可能性がありますので、十分にご留意ください。
  - 原稿提出後に、企画内容・場所・機材等について、申込者にメール等で連絡調整をする予定です。

## 第22回大会の直前案内について

今後、事前案内に関する変更点、研究発表の内容とスケジュール、エクスカージョンの詳細など学会大会の直前案内については、大会専用ウェブサイトに随時掲載していきますので、サイトにアクセスし、その内容をご確認ください。

## 日本野外教育学会 若手優秀発表賞の設置について

### 総務委員会

2018年度第5回理事会において、学会大会における若手優秀発表賞を設置することが承認され、選考規定が定められました。第22回大会（宮城）より、選考が実施されることとなります。「選考対象者」の要件を満たす会員の皆様には、積極的なエントリーをお願いいたします。なお、ウェブサイトを通じた「発表申込」において、エントリーの有無を申請することとなります。詳細については、以下の「選考規定」をご参照ください。

### 日本野外教育学会若手優秀発表賞 選考規定

#### （趣旨）

日本野外教育学会は、若手研究者の野外教育に関する研究発表を奨励し、および学術大会の活性化を図る目的として、年次大会における若手優秀発表賞を設ける。

#### （選考対象者）

選考対象者は、以下の要件を満たすものとする。

- (1) 本学会の正会員（一般／学生）である。
- (2) 研究発表（口頭）の筆頭および演者である。
- (3) 年齢が35歳未満（当該年次大会時）である。
- (4) 発表申込時に若手優秀発表賞の審査を申請したもの（エントリー制）。

#### （選考委員会）

選考委員会は、理事長任命による委員長1名、および委員長任命による選考委員2名以上で構成する。

#### （選考の方法と基準）

選考委員は、対象となる発表者の抄録原稿、口頭発表、

発表資料について、以下の評価基準に基づいて総合的に審査する。

- (1) 研究のオリジナリティ
- (2) 研究の有用性
- (3) 研究方法の妥当性
- (4) 発表技術

#### （受賞者の発表）

受賞者の発表は、当該学会大会期間中もしくは大会後に速やかに行う。また、受賞者には、賞状及び副賞を授与する。

#### （受賞件数と制限）

原則1名とする。また、過去の受賞者は対象としない。

#### （規定の改正）

本規定の改正は、理事会の承認を得るものとする。

#### 付記

本規定は、2019年1月27日から施行する。





## コラム 「すべての子どもに自然体験を♪」

居崎 時江 (埼玉県立大学)

自然体験は成長期の子どもだけでなくすべての人間にとって欠かせないものです。自然が持つ心身の健康上の効果の素晴らしさは、野外教育の研究と実践を積み重ねてこられている先生方が強く実感されていることと思います。しかしながら、人工的環境の発展といった要因により、現代社会では自然体験は意図的に計画され提供されねばならず、さらには、経済力による経験の差が生じていることは先生方も心を痛めているところとお察しいたします。

英国では子どもの貧困、肥満といった先進国が抱える問題を日本より先行して経験し、積極的に研究、政策がされてきております。特に興味深いのはこれらの対応策として自然環境を生かした予防活動を NHS や English Nature 等が率先して行っているところです。環境保全や失業対策なども視野にいれた試みでもあります。

英国の研究で低所得者層の子どもで自然のオープンスペースを訪問したことの少ないケースが富裕層の子どもより6倍も多いとされています (Mitchell 他 2008, Health impacts of the John Muir Award. Glasgow, UK: Glasgow Centre for Population Health)。日本でも国立青少年教育振興機構の調査報告の通り、似通った事態が起こっていることは想像に難くありません。自然と健康に関する疫学研究も英国は他国より進んでおり、自然体験は肥満を含む身体的、精神的健康に効果があることが報告されています。自然へのアクセスの良さが健康を維持し、社会経済的格差による不健康を解決する可能性をも示唆されています。

また、欧州諸国、国連機関では社会福祉分野で子どもウェルビーイング指標の策定が進められていますが、英国のみ指標に自然環境を取り入れている点が非常に興味深いです。

人間は自然の一部です。それにもかかわらず人間が進化とともに発展させてきた人工的環境の中で不平等が起

こっている、嘆かわしい事態です。低所得者層の子どもたちにも平等に自然体験が確保され、大人になっても自然と関わり続け、自然を守る心を生涯にわたって育み続けていく環境作りを優先する後押しすることは、自然環境保全や公衆衛生の観点からも極めて重要なのではと感じております。

私は、2018年3月に東京家政大学大学院で博士号を取得し (題目: 学校における健康教育の現代的課題～社会文化的要因、自然体験の効果の考察を通して～)、今後の研究で何に重きを置いていきたいかを内省した時、すべての子どもに自然体験が享受されるためのシステムづくりに貢献したいという思いが一番にわきあがってきました。

自然と子どもをつなぐことができる保育者を養成するというこれまで通りの任務に加えて、英国の運動生理学や環境科学を専門とする共同研究者とともに、英国の低所得者層の就学前児の自然体験と身体活動、精神的健康の関連性の考察を行う予定です。分析からの知見もアカデミック内で完結しないよう、関連機関に積極的に提示し、一般の方にも理解が得られるよう絵本など分かりやすい媒体で周知することに努めたいと思っています。日本の子どもにも還元できるように、課題解決に向けての実践事例を数多く取材したいです。

日本野外教育学会には多様な専門性を持ちながらも、自然を愛しているという共通のスピリットを持つ先生方が在籍されており心強いです。当該研究計画は余生の大半を費やすであろう、長期計画です。挫折したくなる時もあるかもしれませんが。そのような時は、先生方の論文や学会発表からの知見、それらにみなぎっている先生方の自然へのスピリットを共有させていただくことを通して励みにさせていただきたく存じます。どうぞよろしくお願いたします。



日本野外教育学会